

道路における建設資材調達に関するあり方検討委員会について

○目 的

高度成長期に整備した橋梁やトンネル、舗装など建設後50年を経過した構造物が増加傾向にあり、建設後50年を経過した橋梁の割合は10年後には50%に急増する見込みであり、これらの維持管理費用は拡大する傾向にあります。

また、道路整備・維持管理に必要な建設資材においては、需要の減少に伴う供給施設の減少、原料の輸入価格変動などによる価格上昇などが懸念されることから、今後の道路における建設資材調達のあり方を検討するものです。

道路における建設資材調達に関するあり方検討委員会

○委員 (◎委員長、敬称略、50音順)

- ◎ 秋葉 正一 日本大学生産工学部 教授
- 内田 大介 法政大学デザイン工学部
都市環境デザイン工学科准教授
- 大橋 弘 東京大学公共政策大学院 教授
- 楠 茂樹 上智大学法学部 教授
- 堀田 昌英 東京大学大学院
新領域創成科学研究科 教授

○オブザーバー

(一社)セメント協会

全国生コンクリート工業組合連合会

(一社)日本橋梁建設協会

(一社)日本建設業連合会

(一社)日本道路建設業協会

(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会